

細川ガラシヤ

戦国期のキリシタン

明智光秀の三女として生まれた玉子(後のガラシヤ)は丹後田辺城(現舞鶴市)の細川忠興に嫁ぎました。父が信長を討った本能寺の変の後、玉子は弥栄町味土野(みどの)に幽閉され、侍女の一人からキリスト教の話を聞き、信仰に救いを求めるようになります。やがて洗礼を受け「ガラシヤ」という名を授けられました。関ヶ原の合戦の折、人質となって夫の足手まといとなることを潔しとせず、ガラシヤは心の平安を求めながら、この山深い味土野の地で戦国の最中を過ごしたのです。



細川ガラシヤゆかりの地 〇弥栄町味土野/北近畿タンゴ鉄道峰山駅から車で約40分

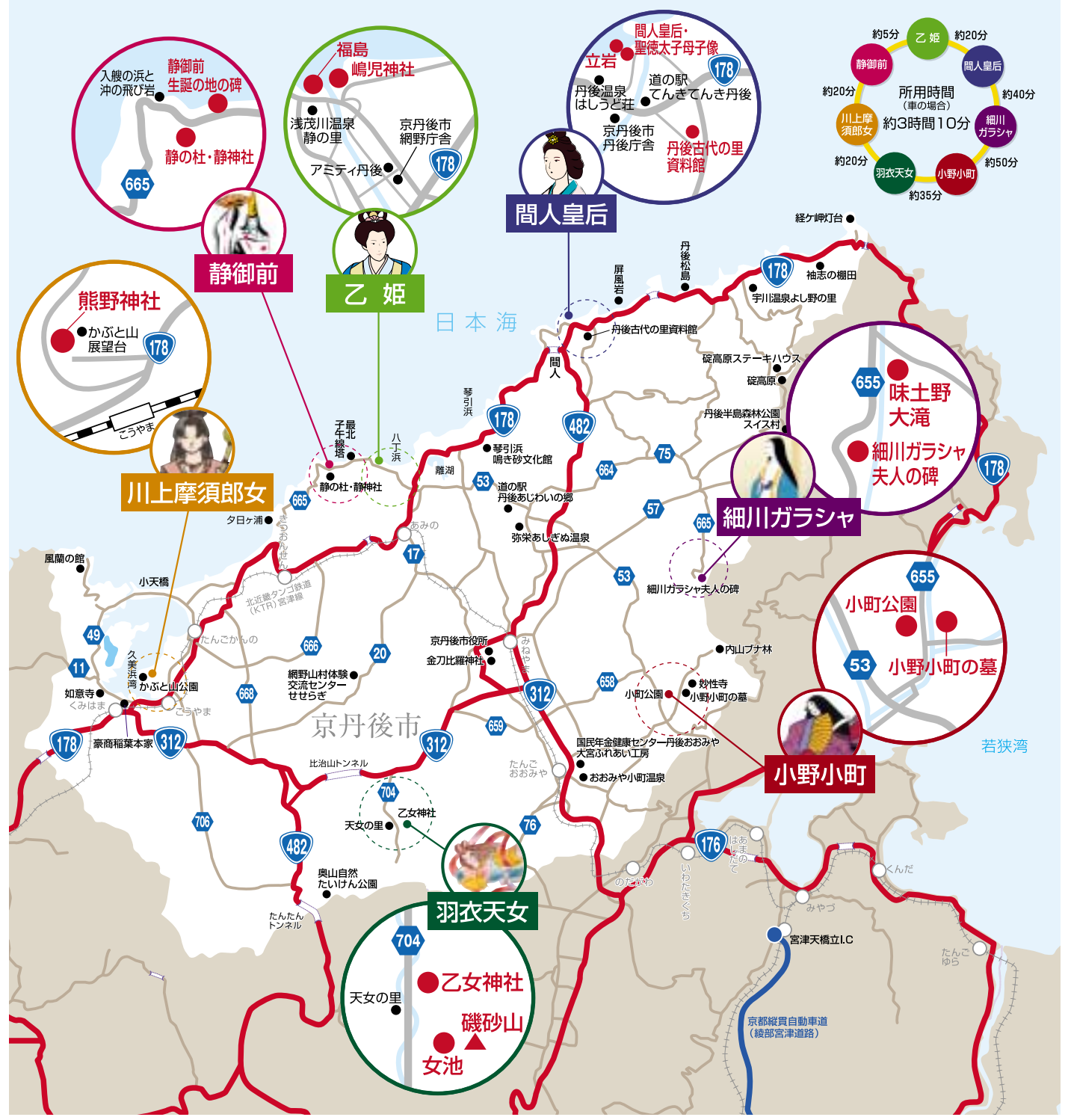
小野小町

今なお語り継がれる 絶世の美女

平安時代を代表する六歌仙の一人で絶世の美女だったといわれている小野小町。妙性寺のいわれを記した縁起には、晩年に都を離れ、天橋立をめざした小町が途中、大宮町五十河(いかが)の住人、上田甚兵衛と出会い五十河を訪れ、この地で亡くなったと記されています。



小野小町ゆかりの地 〇大宮町五十河/北近畿タンゴ鉄道丹後大宮駅から車で約20分



間人皇后

優しき土地に名を贈った 聖徳太子の母



聖徳太子の母・間人(はしう)は、(皇后は、六世紀の末、大和政権の蘇我氏と物部氏との争乱を避け、今の丹後町間人(たいざ)に、聖徳太子とともに身を寄せたと伝えられています。村人たちの手厚いもてなしへのお礼にと、この地を去る際、皇后は自らの名「間人」(はしう)をこの地に贈りました。しかし村人たちは恐れ多いことから、皇后が退座した事にちなみ読み方を「たいざ」にしたとされています。

間人皇后ゆかりの地 〇丹後町間人/北近畿タンゴ鉄道峰山駅から車で約20分

静御前

義経への愛を貫いた舞姫



網野町磯で禅師の娘として生まれたとされる静御前。父の死後、母とともに京都へ上り白拍子となりました。その後、舞う姿を源義経に見そめられ、愛妾となりました。しかし義経は兄・頼朝に追われ、子どもも殺されてしまいます。悲しみにくれ故郷の磯に戻った静御前は、二十余歳の若さでこの世を去りました。義経への愛を貫いた静の気丈さ。それをはぐくんだ故郷・磯には、静御前をまつる静神社が悲恋の面影を残すかのようにひっそりとたたずんでいます。また、周辺には静の庵跡に建つ静御前生誕の地の碑、義経が船を着けたといわれている入艘の浜と沖の飛び岩があります。

静御前ゆかりの地 〇網野町磯/北近畿タンゴ鉄道網野駅から車で約10分

細川ガラシヤ夫人の碑

[ほそかわがらしやふじんのひ]
人里離れた山中の集落味土野の、ガラシヤが住んだ屋敷があったとされる女城跡に建ちます。高台の上にあり、四季の移り変わりが感じられる周囲の山々の眺めが美しい。



福寿草

[ふくじゆそう]
味土野の地に春の訪れを告げる福寿草。雪解けの山里に黄金色に咲き誇るその姿は、この地の象徴ともなっています。



小町公園・小町ブロンズ像

[こまちこうえん・こまちぶろんずぞう]
寝殿づくりをイメージして建てられた小町の舎は、美しい自然に囲まれ幻想的な雰囲気をもたせています。内部には小町に関する文献や資料が展示され、エントランスホールでは小町ブロンズ像がやさしくお迎えます。公園内には五十河の里が一望できるイベント広場が整備されています。
<小町の舎展示室:水休 0772-64-5533>

小野小町の墓

[おののこまちはか]
公園から道を渡った場所にある「眠りの園」に、小野小町が眠っていると伝えられるお墓があります。

立岩、間人皇后・聖徳太子母子像

[たていわ、はしうどうこう・しやうとくたいしほしぞう]
麻呂子親王の鬼退治伝説のある立岩は周囲1km、高さ20mの柱状の玄武岩で、直線的で荒々しい岩肌が特徴。奇岩の多い丹後でもシンボリックな存在となっています。その立岩を眺めるように間人皇后・聖徳太子母子像がたたずみます。

丹後古代の里資料館

[たんごこたいのさとしりょうかん]
聖徳太子の異母弟、麻呂子親王による丹後の鬼退治伝説の紹介など、この地の歴史、伝説をたどることができます。
(9:30~16:00・火休 0772-75-2431)



静神社

[しずかじんじや]
静御前の木像がまつられている静神社は、リアス式の切り立った崖の上に建ち、小さな社が哀しさを誘います。春は桜、水仙が咲き、海岸美と織りなす風景が美しい。



静御前生誕の地の碑

[しずかごぜんせいだんのちのひ]
静神社から約300m、日本海と切り立った断崖との隙間を縫うように家が建つ磯集落の中にあります。ここには、静が暮らした庵がありました。



静の杜

[しずかのもり]
静神社から遊歩道でつながり、朱色が鮮やかな能舞台風の展望台からは日本海が一望できます。

